令和５年度糸魚川市木地屋民俗資料館特別展

テーマ　山に生きた日々･･･道具と写真で伝える木地屋の仕事
会　期　令和５年８月 11 日（金）～10 月 29 日（日）
開館日　毎週土・日、祝休日
時　間　9:30～15:30
入場料　無　料

開催趣旨

木地屋は白木の椀木地を製作する職人として長い歴史をもっていますが、江戸末期から近代にかけては、時代の変化に対応しながら様々に生活のスタイルを変えて山での生活を続けてきました。

大所木地屋ではその流れを大きく三つの時期に分類することができます。

①木地製作期　（江戸時代）
②木地・漆器製作期　（明治・大正・昭和１０年代）
③林業期　（昭和２０年～３０年代頃）

本特別展はこれらの時期を通じて多様に展開されてきた彼らの仕事を、道具と写真で伝えようとするものです。

主な仕事（展示パネル）

① 木地製作（ろくろによる挽物作り）
② 漆器製作（塗り物）
③ 刳物製作（コネ鉢作り）
④ サワクルミの伐採（下駄材）
⑤ トチノキの伐採（床材、家具材）
⑥ ブナの伐採、搬出（床材、チップ）
⑦ 炭焼き

主な展示資料（国指定文化財を中心に）

① カタオコシヨキ（木地製作用具）
② 手引ろくろ（レプリカ・・綱を引いて軸を回転させる作業体験ができる）
③ 漆器製作用具
④ テンブリチョウナ（コネ鉢製作用具）
⑤ ワリナタ、ハツリナタ（下駄木製作用具）
⑥ マエビキ鋸、シンビキ鋸、（床材採り用具）
⑦ 一本ゾリ（材木運搬用具）

主催　糸魚川市木地屋民俗資料館／**共催**　糸魚川市教育委員会／**協力**　想木舎

特別展『山に生きた日々』の開催にあたって

木地屋は白木の椀木地を製作する職人として、江戸時代以前からの長い歴史をもっていますが、近世末期から近代にかけては時代の移り変わりの中で様々に変化しながら山での生活を続けて来ました。

大所木地屋が歩いてきた歴史を大きく整理すれば３つの時期に区分することができます。

第１期＝江戸時代を通じて営まれてきた木地製作の時代で、各地を移住しながら最も長い年月を過ごしています。

第２期＝江戸末期に定住生活に移行してからは木地だけでなく漆器の製作にも仕事を拡張します。これが明治、大正、昭和の初頭まで続き、集落は最も安定した時期を迎えます。

第３期＝太平洋戦争を挟んで漆器産業は衰退し、大きな方向転換を余儀なくされます。これが戦後の林業中心の時期になります。

本特別展ではこれらの各時期を通じて多様に展開されて来た彼らの仕事を貴重な写真と道具で伝えようとするものです。そこには山に生きてきた男たちが、歴史の転換点で見せた最後の光芒とでも言うべき姿が生き生きととらえられています。この後木地屋の社会は完全に現代社会の中に呑み込まれ、山に糧を求めた生活は彼らを最後に次の世代は町に出て勤め人となっていくのです。

こうして見てくると、ここに姿をとどめた山男たちの誇らしげな顔には一抹の哀れが漂っているような気もしてきます。長い木地屋の歴史の変遷と、その最後の姿が語るものを感じ取っていただければ幸いです。

＊本特別展は昨年９月開催の展示に一部資料を追加して再度開催するものです。

令和５年８月

糸魚川市木地屋民俗資料館　館長